

令和5年度 第1回徳島県地域職業能力開発促進協議会 議事概要

徳島県地域職業能力開発促進協議会

1 日 時 令和5年11月1日(水) 14:00~16:15

2 開催場所 徳島地方合同庁舎6階会議室

3 出席者及び所属

【構成員】

松村豊大(徳島文理大学)、脇田亮(徳島県経営者協会)、木具恵(徳島県中小企業団体中央会)、小笠恭彦(徳島県商工会議所連合会)、市原俊明(徳島県商工会連合会)、川口誠二(日本労働組合総連合会徳島県連合会)、領田孝彦(株式会社スタッフクリエイト)、中村一也(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構徳島支部)、新居清一(徳島県職業能力開発協会)、田中俊夫(徳島大学)、村上正浩(徳島県商工労働観光部産業人材育成センター)、竹中郁子(徳島労働局)

【事務局】

篠原毅(徳島労働局職業安定部長)、中野浩志(訓練課長)、丸山ひとみ(課長補佐)、勝瀬泰彦(地方人材育成対策担当官)、木内新悟(訓練課係員)、福井明生(徳島県産業人材育成センター課長補佐)

・議事に入る前に、議題(2)「ワーキンググループの効果検証結果及び訓練カリキュラムの改善促進策(案)について」の協議会資料及び議事録等の取り扱いについて、資料及びその説明並びに議事進行中の発言内容から、ヒアリング対象者が特定され、特定の訓練コースへの批判に繋がる等、ヒアリング対象者に不利益が生じる恐れもあることから、徳島県地域職業能力開発促進協議会設置要綱の規定に基づき、議題(2)の協

議会資料及び議事並びに議事概要について非公開とすることを事務局（徳島労働局）より説明し、協議会構成員の了承を得た。

4 議事概要

議題(1) 令和4年度徳島県地域職業訓練実施状況について

- ・事務局（徳島労働局）より、総計及び求職者支援訓練の実施状況について説明。
- ・事務局（徳島県）より、委託訓練及び県施設内訓練の実施状況について説明。
- ・中村構成員より、ポリテクセンター徳島の施設内訓練の実施状況について説明。

議題(3) キャリアコンサルティングの機会の確保その他の職業能力の開発及び向上の促進の取組について

- ・田中構成員より、文部科学省リカレント教育推進事業に採択され、徳島大学が実施している「エンゲージマネジメント実践講座（とくしまリスクリング講座）」の取組状況について説明。

議題(4) 令和6年度徳島県地域職業訓練実施計画の方針について

- ・事務局（徳島労働局）より、求職者支援訓練及び委託訓練に係る令和6年度徳島県地域職業訓練実施計画の策定方針について説明。
- ・令和6年度徳島県地域職業訓練実施計画の策定方針について、協議会構成員の了承を得た。

【令和6年度徳島県地域職業訓練実施計画の策定方針に係る主な意見】

(松村会長)

計画の策定方針に関しては、適格にニーズを把握したものになっているものと思う。カリキュラムについて工夫する余地があるとすれば、どの職種にも共通する必要なスキルとして、今の求職者に足りていない部分もあるのではないかと。対人コミュニケーションといったものがそうである。例えば、介護・医療・福祉分野とその対人コミュニケーション、そういうテーマで50分間、2コマぐらい置いて、その残りの時間を専門的スキルに充てる。時間割レベルのことなので、人員が必要であったり、教室を用意したりしないといけない等のご苦勞を余計にお掛けするかもしれないが、そういったものも検討の余地があるのではないかと思う。基礎コースのみならず、それぞれの専門分野に必要な共通スキルをカリキュラムに組み込む考え方で行っていただくと、よりマッチングが高まるであろうと考える。

議題(5) 地域の人材ニーズの把握について

- ・村上構成員より、徳島県の産業政策に係る企業誘致の情報等について説明。
- ・事務局(徳島労働局)より、徳島県内の雇用失業情勢等について説明。

【地域の人材ニーズに係る主な意見】

(脇田構成員)

製造現場では新規採用が全く進んでいない。本来、高校生の理系の人員を採用したいが、生徒数の減少や進学率の上昇等から、人材を確保することが難しいため、例えば、文系の大学生を工作機械の要員として、1年ぐらいかけて育成をしているといった話を聞いている。

(木具構成員)

当会では、毎月、傘下会員の景況調査をしており、今年の5月にコロナが明け、4月から比べると景況感は良くなり、8月まで続いていたのが、9月になり途端に景況感が悪くなっている。当会でも新規大卒の求人を出していることから、大学の方とも話しをする機会があるが、今、どのような訓練を企業が国に求めているかよりも、人材として先ずは企業へ来てほしいというのが現状のようだ。

(小笠構成員)

感覚的な話になるが、今は売り手市場であり、小さな企業では求人を出しても人が来ない。面接にさえ来てくれない。正直、求人を諦めている企業もかなり出てきている。

また、DXを推進するといっても対応できる人がおらず、資金面でも苦しい。さらに後継者もないので、事業を廃止しようかというところがかかり出てきているのが現状だろうと思う。現にそういった声も寄せられている。

(市原構成員)

小規模事業者は、人手不足がより危機的な状況のように聞く。会員の社長との話では、どんなスキルを持った方が必要かと聞いたことがあるが、そのようなことは言ってもらえない。とにかく人が来ないと会社が潰れてしまう。スキルも何もいらないので、とにかく来てもらわないといけない状況だと。とはいえ、これは今、現在の目の前の状況なので、長いスパンで考えれば、やはり職業訓練というのは非常に重要な施策であると思うので、ここは息長くやっていただけたら非常にありがたい。

(川口構成員)

ITの訓練によって、ワード、エクセル(表計算)ができるというようなことを明確に書

いておかないと、ホームページの更新等、IT 関係全般ができると思われてしまう。

また、受講生の中に、コミュニケーションが上手くできないので、もっとコミュニケーション能力向上のための訓練をしてほしかったという人も居たが、コミュニケーション能力は、それぞれ個々に持っているものがあり、難しいとは思いますが、カリキュラムの中にコミュニケーション能力の向上や電話応対等を取り入れて、就職支援をしていただけると良いと思う。

(領田構成員)

受け入れる側の企業としては、電話応対など率先してやってほしいということ、事務職に希望することが多く、電話応対は苦手ですとか、コピー取りはできません、メールも使ったことがありませんという方に仕事をしてもらうのは難しいということ、企業からは聞いている。やはり、職業訓練でこうしたカリキュラムを追加していただくことは、ありがたいというのが現場からの意見である。

また、先程からコミュニケーション能力の話が随分とでていますが、県内には、人と人との関係を大事にする企業が多いように私自身感じているので、職業訓練において、ヒューマンスキルを培えるようであれば、さらに良いものと思う。

【松村会長まとめ】

実際の業務データをどう扱って、何をアウトプットにするか、そういったことができないと、初歩的なエクセルの勉強だけでは企業で活躍する人材にはなれないので、実践的な支援の仕方を考えていかなければいけない。

そして、就職氷河期世代、大学生、高校生など年代の問題もある。優秀だけど非正

規雇用としてずっと勤められていた氷河期世代に対して、訓練でスキルを身につけて人材育成をしているが、就職の出口のところで行き詰まっている。

また、県内高校の生徒数が減少の上、工業高校や商業高校の約半分が進学していることもあり、労働力の確保として、構造的に大学生を組み込んでいくことを企業でも考え、同時にそのことを見据えて訓練計画を策定していくことが必要だと思う。

最後に、人材ニーズをどう訓練に反映させていくか、専門的・技術的職業、サービス、生産工程、介護関連などの職業訓練を増やしていくことが政策的役割ではあるが、それらの職種を希望する者がいるかどうかは、別の問題となる。希望者を増やす方策の一つとして、待遇の改善があるが、待遇改善に向けて労働者側と経営者側の尽力を賜らないと、人材不足の解消は難しいと思われる。

議題(6) 令和5年度徳島県地域職業訓練実施計画の変更について

- ・令和5年度徳島県地域職業訓練実施計画に「地域リスキリング推進事業」の記載を追記し、同計画を変更することについて、事務局(徳島県)より説明。

- ・令和5年度徳島県地域職業訓練実施計画の変更について、協議会構成員の了承を得た。